



未来への舟をこぎ出すために

おおえまさのり

わたしたちは今、3・11後の未来を描き出すことを迫られている。それは原発のみならず、わたしたちの文明そのものを問うこととして投げかけられているのをひしひしと感じる。

その問いの答えを生きることとして、フクシマ後の今年、二つの「いのちの祭り」が開かれた。長野県伊那市の千代田湖で開かれた「ちいさないのちの祭り」と富士のふもとばらで開かれた「いのちの祭り2012」だ。ぼく自身は「いのちの祭り」参加企画として、これらの問い応えようと『未来への舟——草木虫魚のいのり』を自主出版することにした。

24年前に開かれた「いのちの祭り88」は、1986年に起きたチェルノブイリ原発事故を受けて開かれたものだった。そして24年後のDragon Yearの今年、はからずもフクシマ後を受けて「いのちの祭り」が開かれた。

今わたしたちの周りでは、脱原発の大きなうねりや原発のない社会を目指す政党「緑の党Greens Japan」の発足、自然エネルギーへの転換からわたしたち自身のライフスタイルの変容、そして文明そのものを問い返すことへとその流れは広がってきている。ぼくの住む山梨県の八ヶ岳周辺でも、福島からの移住支援や保養プロジェクト、脱原発の勉強会や講演会、福島原発訴訟団支援などが展開されている。そしてぼくたちがやっているわくわく田んぼでも福島支援田を設けて、田植えや稲刈りをやっている。

いのちの祭り2012の会場に設けられた「いのちの祭り88アーカイブス」のブースに一人の若い女の子が訪ねてきて、まじまじと言った。「ここに来てはじめて原発のいろんな問題に気づいたんですが、脱原発のためにわたしは何をすればいいんでしょうか?」と。

もうすでに答えは自らの内にあると思う。わたしたちの心のヴィジョンの中にあるのは、自然から未曾有の大災害を受けながら

も、わたしたちが救われるのは自然をおいて他にないということだ。

「幼い頃からずっと、わたしは海が好きだった。子どもの頃、しばしば、海に会いにいったものだ。海辺に立って潮騒の音に耳を傾けていると、母なるものから引き裂かれて個として生きていたわたしが、再び母なるものと一つになってゆくのを覚えるのだった。わたしのふるさと、ふるさとの海。母なる海。

そして大きくなって訪れたインドのプリーシーの海。時間が止まり、永遠へと誘われていった。移ろいゆくこの一瞬が永遠となり、昨日も明日も、ここもそこもない、彼岸と此岸が一つとなった、絶対の今ここ。そして沖縄の碧い珊瑚礁の海に出会った時には、そこにわたしの魂のふるさと、わたしがやって来て、再び還ってゆく魂の原郷を見ないではいられなかった」(『未来への舟』より)

この魂のふるさとである自然を破壊することができたのは、自然のそこから魂を、スピリットを奪い去ってしまったからなのだ。スピリットを奪い去られたそれは、もはや単なる物でしかなくなり、わたしたちはそれらをいとも簡単に収奪し、破壊し、今日の地球環境の危機をもたらしてしまったのだ。それは、わたしたちが魂を失ってしまったために自然のそこに魂を見ることができなくなってしまったということだ。危機なのは自然ではなく、わたしたち自身の方なのだ。わたしたち人類は魂を、人間であることを見失ってしまう危機に晒されている。

魂やスピリットの生きつづけているアニミズムのそこから、再びいのちを紡ぎ出すことによって、わたしたちの新しいいのちの物語を語り出す、そのことこそが今切に問われていることだと思う。『未来への舟』は、3・11後の、未来への舟をこぎ出すための内面への旅を追いつつ、わたしたちのライフスタイルと新しい社会へのヴィジョ

ンを詩的言語で描いてみました——未来を切り開いてゆく若き世代に読んで欲しいと。わたしたちの心の中にはアニミズムの緑の風がいつも吹いている。緑の風よ、吹きおこれ!

【未来への舟】 おおえまさのり著 いちえん
 そう刊1680円 購買はアマゾン他大手書店にて。直販は1680円(送料無料)を郵便振替いちえんそう 00130-7-79316 まで。

目次

第一部 草木虫魚のいのり

- 1 わたしを尋ねる
- 2 夢時間への旅
- 3 神を解き開く
- 4 思考の彼岸
- 5 草木虫魚のいのり——ニライカナイへの賛歌

第二部 未来への舟

- 6 花粉の中心を歩く——自然そのもののカミに支えられた新しい社会の夢——

どこから読んでも、パッと開いたページから読んでもオッケーな本です。

この本とは、

1~2ページ読んでは想いをめぐらし、また気が向いた別の時に読み返す、そんなスルメのようなつき合い方もオススメです。(持留ヨハナ)

未来への舟 おおえまさのり新刊出版記念イベント

11月25日(日) 13:00 開場 14:00 開演
 17:00 終演予定

津金学校 明治校舎2F

山梨県北杜市須玉町下津金2963

0551-20-7100 info@tsugane.jp

入場料 1,500円

→こよみ欄